

## 平成21年度第10回 下山地域会議 会議録

【日時】平成22年1月21日(木) 19:00～21:00

【場所】下山交流館第11会議室

【出席者】委員 15名出席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(2) 平成22年度のわくわく事業の要綱について

(3) その他

5 今後の予定

あったかフェスタ 1月24日(日)10時より 豊田市民文化会館

料理コンテスト実行委員会 1月27日(水)19時より 下山交流館12会議室

下山地域産直連絡会 2月4日(木)19時より 下山交流館11会議室

定住勉強会 2月12日(金)19時より 下山交流館多目的ルーム

第11回地域会議 2月18日(木)19時より 下山交流館11会議室

新任研修会 2月23日(火)19時より 下山交流館11会議室

---

### 【内容】

1 あいさつ

(副会長)こんばんは。会長が所用により遅れるため、代行する。委員になり2年が過ぎようとしているが、これからはもっと地域に密着して行政に物を申せるような地域会議になったらいいと思うので、よろしくをお願いします。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(事務局)前回の地域会議をもとにまとめた。子ども分科会は要望でと了承を得たため、保健師とまどいの丘に外で遊べる遊具と広場の整備を、提案1から3までは、地域予算提案事業として今年度事業化するために計画を策定した部分をまとめてある。

(副会長)事前に資料を確認していると思うので、意見をお願いします。子ども分科会の保健師の話からですが、検診を地域の目玉として、出会いの場を設けてあげたいという思いを持っている。広場の方は、まどいの丘に香恋の館の対岸のような広場をとということでした。

(委員) 遊具はどんなものか。具体的に書かなくていいか、種類がわからない。

(事務局) 滑り台、ブランコ等という例は出ていたが、こんな遊具がほしいという話はしていないので、具体的には書いてない。

(副会長) 遊具の種類は具体的なものを書くかどうか。

(委員) 年齢によっても遊具の種類が違う。

(副会長) 小さな子は室内に現存の遊ぶ道具がある。今のような内容を言葉に置き換えれば。

(委員) 何をと具体的に書くよりも、安全な遊具などでどうですか。

(副会長) 軽微な遊び道具ということではいかがですか。

委員了承。

(副会長) 次にみりん分科会で、しもやま住んでみりん定住促進事業で、まちづくり協議会でも同様に考えているが、地域会議と合同で考えていく予定。前回話をした組長全員に出席してもらい、区長と地域会議とで勉強会をし、今後について方向性が出せればと思う。実際、困っていることがわからないという現状だと思うので、定住促進を下山地域で考えることができると良いと思う。

(事務局) 定住促進事業として、以前に事業計画として策定したものと同じで、30集落のワークショップで定住に対する意識付けと受け入れ体制の情報の整理、代表者会で下山全体の魅力づくりと全域を考えたワークショップ、廃校の跡地利用を関係集落に定住に結びつけた形で活用できるかどうかの検討、土地利用で分譲供給適地の提案ができるよう調査をする。まちづくり協議会の第1部会で定住について考えている。合同で検討できるように調整をしている最中。

(副会長) 次に産直による地域活性化事業で農林業分科会で、高齢者が野菜を作り、小遣いを稼ぎ、いきがづくりができたなら良いと進めてきました。システム化や地域内の統一化は難しい問題だが、1つでも見出していけたらと思う。

(委員) つけ加えて、農地の保全に多少でもつながればと入れたいと思う。

(事務局) 解決策の部分にマップの作成を付け足す。後段の部分に農林地の保全に関する文章を一文入れる。

(委員) 大沼でも朝市をやっている。赤字だが止められない。ネットワークを作り、月1回日にちを決めて、無人販売のところも1時間くらい有人にしてもらい朝市をやるなどの、横のつながりを持ったことをやれると良いと思う。よそから来た人が他の産直にも行けるように、まとまりのあることができ、情報伝達ができたらと思う。

(事務局) 産直連絡会があり、そこで議論をと思う。地域内合同でできるイベントの開催、同じ目印になるのぼり、どこにあるかがわかるマップを地域予算提案事業としてある。共通の部分を作るのは難しいが、やっている方達でやれることからという投げかけをしている。現在の連絡会は既存のみなので、支所だよりなどに載せて、やりたい人を募るなど、やりたい方の支援など連絡会の幅が広がるよう発展的な話ができるようにと進めている。

(副会長) 連絡会の方で検討ということで、提案としてはこれでよかったですか。

委員了承。

(副会長) 三河湖畔の景観アップ事業で、わくわく事業から発展的に地域予算提案事業として挙げていくものですが、意見がありますか。

(事務局) 三河湖共栄会は地域予算提案事業として行うため、わくわく事業としての申請は次年度ない。今年度の申請でも委託工事など、専門家をお願いする部分が出始めた。わくわくと同様に地権者や交流事業は団体で行い、共働でできる部分は一緒に、委託、工事などの自分達でできない部分を市が発注することになり、わくわくより幅を広げて行うことになる。

(委員) 植栽は村外の人と交流として行っているが、もう少し強く打ち出してアピールできたら、人がさらに寄るようになると思う。

(委員) 散策道の途中にトイレがほしいと言われる。多目的トイレ、座ってできるトイレを。

(委員) 県道につながるような散策道の作り方をし、その途中にトイレを作れば管理がしやすくなると思う。水を使わない循環式の、昆虫の森にあるような物を置けば管理面では良いと思う。

(副会長) 観光面の進捗状況は。地域予算提案事業とは、どう結びつくか。

(事務局) 厳しい財政状況の中のため難しいが、三河湖全体の景観アップとして、まずきっかけで行う。園地は合併の時に県と調整したができず、現在再度調整している。無償で貸与し、リフレッシュ事業を使って整備しなおすなど検討している。引き続き支所で調整していく。

(事務局) 支所の予算としてもつけ、現場調査をし設計をして、具体的な絵を描き、それに基づき植栽や整備をしていく。

(委員) 対岸は県有林か。羽布で草刈も年に1回は行っている。

(事務局) 市有林である。管理は森林課になる。

(副会長) 他にはよかったですか。提案事業については、これで良いですか。

委員了承。

(副会長) 平成22年度わくわく事業募集要項の検討をする。

(事務局) 要項については例年と変わらず、募集期間の3月23日から4月12日、審査日時の4月24日の設定は今年度と同様に日付を合わせたもの。別表1を第1・2回地域会議で検討し、食料費・賄い材料費で食べ物、口に入るものは不可と決めた。継続費に関して使用料、賃借料で、原則、例年開催される事業に対する賃借料は5年を限度とすると網掛けがしてあり、検討する。わくわく事業は自立を促す目的で、賃借料だと100%出るが、自分達の物にはならないため自立を促すという視点から、備品など自分達の物にし自分達で事業をできるようにと提案をした。事業を認めないのではなく、賃借料は5年を限度とし、備品などを購入するのであれば、支援していく。

(副会長) わくわく事業は500万円の補助金なので、例年お祭りの時に毎年借りて返せば良いと行っている、整備をするためにチェーンソーを備品で買い半分自己資金で行っている事例もある。他地域の地域会議を見ても、2年で自立というケースもある。下山については5年で甘いかもしれない。賃借料の取り扱い、5年で区切りとしていくべきだと思うが、いかが思いますか。

(委員) 備品で買ってもらい、一生懸命に行ってもらうのが理想。賃借料が認められないから事業がやれないと言うのも寂しい気がする。

(事務局) 現在の団体で3つ該当するだろう事業がある。花山のどろんこサッカー、平瀬の納涼祭、三巴の夏祭り、コンサート。夏祭りなどに必要な道具は、他の地区は自前で行っている。事業自体を認めないではなく事業の支援はする、賃借料で100%ではなく、自分達で少しでも負担をし、事業を行っていただきたい。平成22年度の申請が挙がると、5年目になる。そのため、基準をつけるのであれば、申請段階で、賃借料と備品と分け、団体に負担が重ならないように事務局としても話をする。

(委員) 5年を17年から起算して5年と考えるのか、今回基準を設けたから、ここから5年とするのか。

(副会長) スタート時点から、5年と考える。

(委員) 期限を切ることによって、団体の中で相談して自己負担をしていくことも必要な考え方なので、賃借料5年と期限を切ることもおかしくないと思う。

(副会長) 5年と期限を切り行い、どうにも事業がやれないということが続いたら、そこで考え直

すということでしょうか。

(副会長) 足助は2年で完全に終わる。自立心が下山よりも強い。

(委員) 机やいすは代用がきくので、みんなで工夫してもらうのも良いと思う。物によると思う。

(事務局) 照明を借りている賃借料だけを見るのではなく、行っている事業が5年かどうか、それにかかる経費として見る。今年借りていて、去年借りていなくても、2年と見る。%や物によるのも、なるべく審査がわかりやすく、申請者も審査をする側も明確でありたい。事業を行っていても自治区と結びついていないため、自治区と結びつくための後押しをする、申請はしていないが、申請したらもっと幅が広がる団体を発掘するのも地域会議の役目としてあると思う。

(副会長) 5年ということで期限を設けるということでしょうか。

委員了承。

(副会長) 賃借料については5年を限度とし、以後は備品などとするということで、指導していくと決定する。

(事務局) 平成22年度の申請は5年目となる。次年度の申請より窓口で案内をしていく。

(副会長) 提案・提言で何かありますか。

(委員) どんごサッカーで予備日が問題になったが、要項の中に天候に左右されるイベントは予備日を設けると入れてほしい。

(副会長) 昨年度は協議の中で、審査会の時に条件とした。今回は条件ではなく、項目として入れてほしいということで、項目として入れた方が良いですか。

委員賛成。

(事務局) 7その他の部分に特記事項として、天候に左右される事業は予備日を設けることと入れる。2月の地域会議で修正を出し、決定をしていただく。

(委員) 要項を変えながら、地域の方達がやりたくなるような事業になると良いと思う。地元の良いことをやっている団体に声をかけることを委員にもしてもらいたい。

(事務局) こういう事業があるから、やってみないかという働きかけもしてみたが、なかなかできない。委員にそういう部分の支援をしていただきたい。

(委員) 傍から見ると、わくわくの事業に好ましいと思いをかけると、申請書類を書いて審査を受けることが難しいということと、リーダーがいて、きちっと記録しなければいけないことがネックになっている。

(副会長) 委員の任期が切れるが、事業のバックアップをしていただきたいと思う。

(事務局) 提言・提案については書面の確認をしていただき、次期委員の新任研修も始まるので、地域会議として引継ぎがあれば全体で検討をしていただきたい。

## 5 今後の予定

(事務局) あったかフェスタ1月24日で研修扱いになる。料理コンテスト実行委員会1月27日、産直連絡会2月4日、この2つは該当者、あとは全員参加で、2月12日定住勉強会、2月18日定例の地域会議、3月2日定住で伊那市高遠町視察、3月20日わくわく報告会と最後の地域会議となる。新任研修を2月23日と3月25日に2回行う。

(会長) 地域との連携で自治区の組長会に出て行くことをしたが、やることがたくさんあり組長会は忙しい。地域会議の話を上手に伝える時間取りが難しいと感じた。もう少し、工夫することを今後の課題として検討した方が良かった。

(副会長) 以上で第10回地域会議を終わります。ありがとうございました。